

「住まいづくり支援建築会議」設立記念 講演会・シンポジウム

「耐震偽装問題の背景と住まいづくり支援建築会議が果たす役割」

耐震強度偽装に関わる一連の不祥事は、建築の安全に対する国民の信頼を著しく毀損し、多くの国民に深刻な不安を与えることになった。住宅・建築は国民にとっての生活基盤・社会基盤であり、地球環境の保全、文化の継承、安全安心の確保、少子高齢化への対応などの観点から、今後何世代にもわたって使うことの出来る持続可能なよりよき住宅・建築を、社会資産として次世代に残していかなければならない。住宅・建築の性能や構造安全性の水準を選ぶのは建築主および購入者であり、また住宅・建築は長期にわたって空間を占有し、環境および周辺住民に多大な影響を及ぼすとともに耐久財として流通していくことから、建築主・購入者は優良な住宅・建築を社会に存在させる責任を負っている。したがってよりよき社会資産の形成・継承という理念を実現するためには、建築主・購入者が住宅・建築に関してより正確な情報を持ち自己の責任においてよりよい住宅・建築を創造していくことが必要である。

以上の基本認識の下に日本建築学会は、住まいづくりに関する社会状況を常時監視・評価し情報発信するとともに、社会課題について国民と社会が解決を要望する事項に迅速に対応するために、会長直属の会議体として「住まいづくり支援建築会議」を創設した。

設立を記念しての第一部講演会では、なぜ、耐震強度偽装が行われたのか、また、それを許した背景は何であったのか、さらには、今後その様な事態が生じないようにするにはどうしたら良いのか。住まいづくり支援建築会議を本会が立ち上げたきっかけとなった事件を分析し、今後の支援建築会議の活動の方針をも定めていく講演会としたい。さらに、第二部シンポジウムでは、一般の方々から住まいを注文する、あるいは購入するに際して直面する問題や、住まい居住者がどの様な問題に助言を必要としているかを事前に調査し学術団体としての支援活動が果たすべき役割や機能について、会場の参加者ととともに議論する。

主 催 日本建築学会住まいづくり支援建築会議

日 時 7月10日(月) 13:30～17:00

会 場 建築会館ホール

プログラム

司 会 西川 孝夫(東京都立大学名誉教授)

記 録 平田 京子(日本女子大学助教授)

1. 挨拶

村上 周三(本会会長、住まいづくり支援建築会議会長、慶應義塾大学教授)

<第1部講演会>

2. 話題提供

(1) 建築物耐震強度偽装事件の背景と課題 友澤 史紀(日本大学教授)

(2) 建築基準法が保証する「安全」とは 春原 匡利(東京検査機構・前東京都建築指導課)

<第2部シンポジウム>

(1) 住まいづくり支援建築会議の活動について

(2) 住まい注文者・購入者・居住者が直面する課題と支援会議が果たすべき役割

服部 岑生(運営委員会委員長・支援部会長 千葉大学名誉教授)

古阪 秀三(運営委員会委員・調査研究部会長 京都大学助教授)

西川 孝夫(運営委員会委員・情報事業部会長 東京都立大学名誉教授)

定 員 200名(申込み先着順)

参加費 500円(資料代)

申込方法 E-mail または FAX にて「催物名称、氏名、勤務先、所属、電話番号、E-mail:アドレス」を明記のうえ申し込む。

問合せ 日本建築学会事務局 野口 E-mail:noguchi@aij.or.jp TEL 03-3456-2051 FAX 03-3456-2058